



学校だより

令和4年9月30日
横浜市立豊田小学校
10月号

開く つなげる とともに

豊田小学校ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/toyoda/>

「校長先生、歯が、ぐらぐらしているよ。うれしい！」

学 校 長



児童が描いたポスター



「この歯が抜けたんだよ」(校長室にある紙模型¹を使って)

ある日の休み時間。1年生と校長室での話です。

校長：「今、歯が、ぐらぐらしているんだって。」
 児童：「うん。」
 校長：「歯が、ぐらぐらしているって、どんな気持ちですか。」
 児童：「うれしい。」
 校長：「ええ。」「なんで、うれしい気持ちになったのかな。」
 児童：「大人の歯に変わるから、うれしい。」
 校長：「うれしいんだ。大人の歯に変わるって、うれしいんだ。」
 児童：「うれしい。大人になるって、うれしい。」
 校長：「歯が抜けたら、また、校長室に来てね。」
 児童：「うん。」
 そう言って、教室に戻っていきました。



【1年生のイラスト】

乳歯から永久歯に変わることで、児童は素直に「うれしい」と答えてくれました。大人になることへのあこがれでしょうか。別のある児童は、歯が抜けた時は、「いっぱいおとなになれてうれしかった。」と教えてくれました。そこには、成長する喜びを素直に表現し、その実感とともに味わい、共有できる素晴らしいひと時があるように思います。

さて、みなさん、歯が抜けた時、その歯をどうしましたか。日本では、昔から上の歯が抜けたら縁の下へ、下の歯が抜けたら屋根に放り投げる風習があるようです。実は、世界中には、歯が抜けた時、枕の下に入れて眠っている間に歯の妖精がやってきてその歯を持っていってくれるなど、数えきれないくらいの言い伝えや習慣があるようです。

「8020 (ハチマルニイマル) 運動」は、いつまでもおいしいものを食べ続けるため80歳になっても20本以上自分の歯を保とうという運動です。「生涯、自分の歯で食べる楽しみを味わえるように。」との願いを込めて、歯を大切にしていきたいものです。

¹ この紙模型(「e-口模型」登録番号第5330659号)は、《共同企画》横浜市旭区歯科医師会創立50周年記念研究大会第29回日本学校歯科保健・教育研究会(2022.9.11旭公会堂)で配布されたもの。当日、学会テーマ「ポストコロナに向けた歯・国の健康づくり」のパネルディスカッションで、本校の養護教諭と校長が「感染対策と両立する学校歯科保健活動」を発表しました。